

猿沢地区振興会だより

発行元
〒029-0431
大東町猿沢字板倉 57-1
(猿沢市民センター内)
猿沢地区振興会

猿沢の魅力の後世に

～平成版「猿沢八景」～

まちづくり委員会によりまとめられた平成版「猿沢八景」のマップ案が完成し、現在看板業者と校正を行っております。

猿沢の歴史文化と地域資源を身近に感じ、後世に伝えていくことを目的とし、猿沢史談会が長きにわたり調査しまとめてきた資料とすり合わせをし、現地視察で現状も確認してきました。

マップには①名称②所在地③猿沢市民センター(看板設置場所)からの距離と時間④見どころポイントに記載する予定です。

マップの写真は、地区の方からご提供いただいたものと、昭和56年に猿沢地区青少年地域活動実行委員会(委員長・及川弘喜氏)が編集した際に、当時撮影し市民センターに保管されていた写真を使用しました。

猿沢八景マップを作成していく中で、いつも変わらず、当たり前だと思っていた景色は、決してそうではなく、守り伝えていかなければならないものであると切に感じました。

マップは、3月中の完成を予定し、設置に向け準備を進めていくと共に、活用方法や周知方法についても今後検討していきます。

現在校正中のマップ案

猿沢八景マップ

【猿沢八景とは】
猿沢における歴史的、代表的、な8つの景勝のことです。

①名称
②所在地
③猿沢市民センターからの距離と時間
④見どころポイント

①蓬萊山(蓬嶺)
②猿沢字倉林～市道栗沢線の丁字路付近
③20km(車で40分)
④猿沢地区のシンボル 薬草や高山植物の宝庫

①愛宕山と柴山城(歴史)
②猿沢字倉林 館の入り口
③1.2km(車で3分)
④神仏習合の森 愛宕山 柴山館跡と袴(さえかち)の古木

①石清水観福寺(寺院 真言宗)
②猿沢字野田前 37
③900m(車で2分)
④磨崖碑と義経北行伝説

①お水神様の湧口(清水)
②猿沢字清水川地内
③400m(徒歩2分)
④慶長時代(1598)以前に普羽山清水寺があった

①内通山龍泉寺(寺院 曹洞宗)
②猿沢字袋沢2
③2.7km(車で6分)
④山門と、新渡戸橋付近には御影石を割って育つ松がある

①志田山の夕日輝き(絶景)
②猿沢字志田山付近
③3.6km(車で8分)
④夕日で赤く染まる水田

①菅根山 朝日輝く(初日の出)
②猿沢字本木地内
③2.1km(車で5分)
④正月に本木流の入りから望む、菅根山山頂からの日の出

①猿沢山(蓬嶺)
②猿沢字倉林～市道栗沢線の丁字路付近
③20km(車で40分)
④猿沢地区のシンボル 薬草や高山植物の宝庫

①愛宕山と柴山城(歴史)
②猿沢字倉林 館の入り口
③1.2km(車で3分)
④神仏習合の森 愛宕山 柴山館跡と袴(さえかち)の古木

①蓬萊山(蓬嶺)
②猿沢字倉林～市道栗沢線の丁字路付近
③20km(車で40分)
④猿沢地区のシンボル 薬草や高山植物の宝庫

①愛宕山と柴山城(歴史)
②猿沢字倉林 館の入り口
③1.2km(車で3分)
④神仏習合の森 愛宕山 柴山館跡と袴(さえかち)の古木

①石清水観福寺(寺院 真言宗)
②猿沢字野田前 37
③900m(車で2分)
④磨崖碑と義経北行伝説

①お水神様の湧口(清水)
②猿沢字清水川地内
③400m(徒歩2分)
④慶長時代(1598)以前に普羽山清水寺があった

①内通山龍泉寺(寺院 曹洞宗)
②猿沢字袋沢2
③2.7km(車で6分)
④山門と、新渡戸橋付近には御影石を割って育つ松がある

①志田山の夕日輝き(絶景)
②猿沢字志田山付近
③3.6km(車で8分)
④夕日で赤く染まる水田

①菅根山 朝日輝く(初日の出)
②猿沢字本木地内
③2.1km(車で5分)
④正月に本木流の入りから望む、菅根山山頂からの日の出

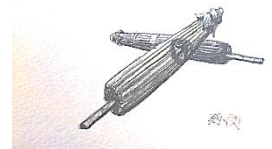
○が蓬萊山
□が愛宕山
★が柴山城

猿沢地区振興会 平成 30 年度まちづくり委員会考案事業

※写真や体裁は変更する場合があります。

からさん子ツセ菊
贈 贈
= 寄 =

孫たち
への手紙
第19集



岩手県老人クラブ連合会監修の体験文集「孫たちへの手紙」第19集を、まちづくり委員の菊地セツ子さん（3区）から寄贈していただきました。

この本は、戦前、戦中、戦後の歴史的な体験を次世代に伝える証言がまとめられたもので、その後も次々と続いているものです。

今回発行された第19集では、菊地さんが「大東町猿沢の昔」と題し、菊地さんが父親から聞いた話の内容や、宿場町として栄えていた猿沢の様子などを寄稿したものが掲載されています。

菊地さんからは、ぜひ振興会のまちづくりに活用してほしいと寄贈していただきました。

いただいた本は、振興会事務所内で保管しておりますので、読んでみたい方は事務所までお声がけください。

皆さんご存知ですか？

観福寺の磨崖碑

猿沢の人であれば知らない人はいない猿

沢野田前にある「石清山 観福寺」。平泉を

脱出した義経主従が投宿し、そのお礼として義経の四天王の一人「亀井六郎重清」の

「笈」が寺宝として今も伝えられています。

先日、その観福寺の佐伯信乃婦さんから、

「観福寺はね、『笈』や、菅江真澄が記した

『虹のごとき橋を架けた観音堂』はみんな

知っているけど、あまり知られていない『磨

崖碑』が見事なのよ」と、その磨崖碑が掲載

されている記事と写真をみせてくださいま

した。

観福寺の「磨崖碑」は、岩肌に数多くの阿

羅漢尊者、また仏菩薩の名号が彫られ、その

下方には古歌、漢詩が刻み込まれているそ

うです。

猿沢の文化や歴史、自然など、四季折々の

猿沢の姿を写真と共にまとめた「猿沢スケ

ッチ(続)」(平成9年に発行)の中にも、No.

66「磨崖碑」と題してまとめており、その

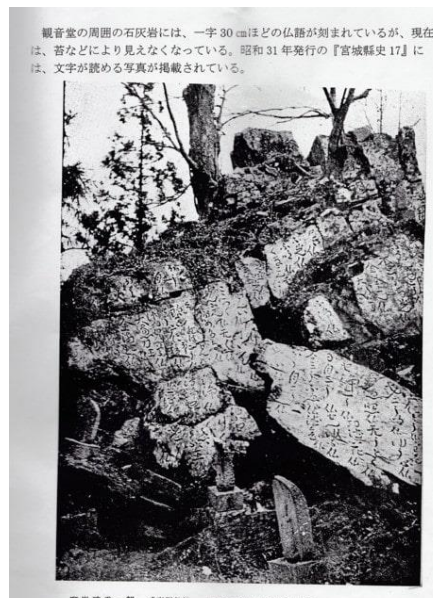
様子を「岩陰でコツコツと鑿(たがね)の音

を響かせながら、一心に碑を彫っている石

工(いしく)が、今にも出てきそうな静けさ

である」と表現しています。

残念ながら現在は苔などにより見えにくくなってきたりとのことですが、春になり雪がとけて木々たちがまだ目覚める前に、観福寺の磨崖碑を見てきたいと思います。ぜひ、皆さんも機会がありましたら、観福寺境内を散策してみてくださいいかがでしょうか。



磨崖碑が掲載されている記事 (岩手大陸 2018)

人口と世帯数

平成31年1月31日現在 (前月比)

一関全体			
人口	11万7,296人		-219
男	5万6,868人		-103
女	6万0,428人		-116
世帯数	4万6,320世帯		-39
大東地域			
人口	1万3,445人		-36
男	6,568人		-22
女	6,877人		-14
世帯数	5,037世帯		-5
猿沢地区			
人口	1,697人		-2
男	835人		-1
女	862人		-1
世帯数	588世帯		0